

この報告書は、災害教訓の継承に関する専門調査委員会の下に設けられた小委員会において検討され、平成17年2月23日に開催された同調査会で承認されたものである。執筆は、

(主査) 都司 嘉宣 東京大学地震研究所助教授
柄谷 友香 京都大学大学院工学研究科都市社会工学専攻助手
西出 則武 気象庁地震火山部管理課長
西山 昭仁 大谷大学大学院文学研究科
北原 糸子 神奈川大学非常勤講師

の各委員が行い、担当は以下のとおりである。

第1章 安政東海・南海地震の実像と先人の災害教訓 (都司)

第2章 安政東海・南海地震(1854)の詳細実態 (都司)

第3章 安政東海地震・安政南海地震の災害教訓例

第1節 下田港の被害と復興 (北原)

第2節 安政南海地震における大坂での震災対応 (西山)

第3節 紀伊国広村について (柄谷)

第4節 地震災害が当時の社会システムに与えた影響とその復興 (北原)

第5節 安政東海・南海地震の災害情報について (北原)

第6節 当時の先人自身が残した教訓 (都司)

第7節 古代・中世の東海地震・南海地震の伝承の中から (都司)

第8節 現代の津波予報技術の観点から (西出)

第3章 むすび (都司)

付 録 (都司)

災害概略シート (久津間)

務台委員、下河内委員、山下委員、阿部委員は、報告書全体の確認を行った。

なお、事務局の担当は以下のとおりである。

石井 晴雄 内閣府防災総括担当企画官 (平成16年3月まで)

久津間敏生 内閣府防災担当企画官

西潟 政宣 内閣府防災担当主査

高部 信孝 内閣府防災総括担当主査付 (平成16年3月まで)

秋元 伸哉 内閣府防災総括担当主査付

平成17年3月

内閣府政策統括官 (防災)